

令和5年度 第2回 鶴見区地域福祉保健計画(鶴見・あいねっと)推進委員会 議事要旨

日時：令和6年1月26日(金)14:00～16:00

場所：鶴見区福祉保健活動拠点(鶴見区社会福祉協議会) 多目的研修室 ABC

推進委員：山崎委員長、八森副委員長、

石井委員、押山委員、桑島副会長(日向委員代理)、小林(政)委員、谷委員、
福井委員、増子委員、松坂委員、宮野委員

(欠席：斉藤委員、日向委員、平森委員、清水委員、巴委員、小林(広)委員、岩崎委員)

事務局：【区役所】

鶴見区長、鶴見区副区長、福祉保健センター長、福祉保健センター担当部長、
福祉保健センター福祉保健課長、福祉保健センター高齢・障害支援課長、福祉
保健センターこども家庭支援課学校連携・こども担当課長、鶴見区福祉保健セン
ター生活支援課担当課長、区政推進課地域力推進担当課長、区政推進課地域力推
進担当係長、福祉保健課事業企画担当係長、事業企画担当職員

(欠席：福祉保健センターこども家庭支援課長、福祉保健センター生活支援課長)

【区社協】

事務局長、事務局次長、事務局職員(欠席：鶴見区社会福祉協議会会長)

1 開会(進行：福祉保健課事業企画担当係長)

議事の内容、写真撮影の承認及び議事録のホームページ掲載について確認。

2 委員長あいさつ

お忙しい中ご参加いただきましてありがとうございます。本日も貴重なお話を伺える
と思います。また、おめでたいはずであった1月1日には能登で地震、1月2日には羽田空
港で飛行機事故が発生しました。大変な中ですが、よろしく願います。

3 区長あいさつ

今お話がありました。1月の能登半島の地震におきまして、多くの方がお亡くなりにな
りました。お悔やみ申し上げたいと思います。それから、被災された方みなさんにお見
舞い申し上げます。

本日はお集まりいただきありがとうございます。みなさまには日ごろから鶴見・あいね
っと(鶴見区地域福祉保健計画)の推進に多大なご支援・ご協力をいただいていることを
改めて御礼申し上げます。

今日の推進委員会では、2月に行われる推進フォーラムの内容についてのお話を行う

と聞いております。昨年の推進フォーラムに初めて参加させていただきましたが、大変感動した、素晴らしいフォーラムであったと思います。三つの地域の発表(子ども・高齢・障害)から地区の力を入れていることが行動している方の言葉で表されておりました。ほかの地区の良い参考になったと思います。今年のフォーラムも昨年に負けない内容になることをぜひ期待しております。冊子を見るとコロナも落ち着いてきたことで各地区の活動が活発になって来ていまして、福祉保健活動含めてお祭りも活発になっていると感じます。本日は推進の柱「必要なときに支援が届く地域づくり」について考えるグループワークも行われますので、せっかくの機会なので活発な意見交換になると良いと思います。

4 議事(進行：八森副委員長)

(1) 第4期区計画及び次期計画策定に向けたスケジュールについて

(説明：事業企画担当係長)

資料2「第4期区計画及び次期計画策定に向けたスケジュールについて」に基づき次の通り説明。

計画期間について、市計画は区計画より2年先行しており、区計画は引き続き4期計画を推進しながら令和6、7年度の2年間で5期計画を策定していく。

5期計画策定体制(案)について、4期計画と同様、計画策定検討プロジェクトを立ち上げ、プロジェクトは推進委員からメンバーを選出し、推進委員会との二層体制にすることで、推進委員の多様な意見を取り入れていきたい。

区(全体計画)と地区別計画は、相互に補完しながら同時に策定していく。

(2) 第18回(令和5年度)鶴見・あいねっと推進フォーラムについて(説明：区社協事務局次長)

資料3「推進フォーラムのチラシ」に基づき企画内容について次の通り説明。

今年度のフォーラムは2月17日(土)午後1時30分～午後3時30分、場所は鶴見公会堂で実施。内容は第1部で社会福祉功労者感謝会としてボランティア、寄付など福祉活動に協力されている方を表彰する会、第2部では地域活動の発表として鶴見・あいねっとの【推進の柱1】「つながりのある地域づくり」に関する活動を2事例取り上げる。

資料4「推進フォーラム冊子」に基づき当日配布冊子について次の通り説明。

①製本された冊子を当日参加者に配布する。

②フォーラム冊子の構成について説明。昨年は推進の土台(人材、相互理解、場・機会)に関する事例であったが、今年度は【推進の柱1】「つながりのある地域づくり」に注目した事例を発表する。今年度1回目の推進委員会では「連携」「つながり」といったキーワードがたくさん挙げられていたため、これらを踏まえて「つながり」を取り上げ

ることとなった。動画はYouTubeで公開される。地域活動の事例発表では、駒岡地区フードドライブとあさひキッズ愛護会が取り上げられる。駒岡地区フードドライブは後程動画を見ていただく。あさひキッズは寺尾地区の取組であり、旭小学校の3年生有志が地域とつながりを作ってまちを明るくしたいという目標をもって、公園愛護会や地域のお店、地域活動ホーム幹、地域ケアプラザなど大人と子どもが顔見知りになって、はじめは授業の一環であったが有志として主体的に考えて地域に参加していくようになるという良い事例である。当日小学生も30人ほど登壇予定なので、ぜひ見に来ていただきたい。

ほかにもフードドライブ回収ボックスの設置やあいねっと抽選会といった参加型イベントも用意している。

各地区の取組、地区別支援チームのメンバー、ボランティア分科会、善意銀行(寄付)について掲載している。

【フードドライブ(駒岡地区)の動画を視聴】

(八森副委員長)冊子を当日配布するということとフォーラムの企画及び冊子について承認いただきたい。

→意見なし、承認された。

(3)意見交換(グループワーク)

テーマ:誰もが必要な支援につながる取組に向けて～フードドライブ等の取組を参考に、第4期区計画【推進の柱2】「必要なときに支援が届く地域づくり」について考える～

(八森副委員長)フードドライブの取組を参考にしながら、必要な人に必要な時に支援を届けられるように何をしているか、できたらよいかなどを意見交換していただき、グループで意見交換したのち、一人ずつ発表いただく。

【フードドライブ等の取組について】(説明:区社協事務局次長)

フードドライブは生活費・食料に困っている方に食料を届ける仕組みである。コロナによって今までは生活できていたが困るようになってしまう方が増加した。区社協は貸付の申請窓口になっていたので多くの方が押し寄せる事態になっていた。貸付は数カ月かかってしまうが今すでに困っているという方もいて、食支援を進める場合もあったが、遠慮される方も多かった。支援を受けるのはハードルが高く、窓口相談に来る方にはつながれるが、来ないけれど困っているという方は数十倍以上いるだろうと感じていた。市の社会福祉協議会や他区の社会福祉協議会でも生活に困っている方の食料支援に携わってきたが、食料と人のつながりは本当に大事なものであると思った。

困っている方は区役所・区社協に来る方もいるが、そうでない方も多い。来所されていない方の声を受け止めているのは専門的な窓口ではなく人であると考えられる。皆さんも区

内で様々な活動をしてくださっているの、意見を頂ければと思う。

< 4 グループに分かれてグループワークを行う。 >

【グループワークでのご意見】（グループワークで頂いたご意見を一部掲載。）

- ・まめっこひろばでは生後 57 日後からの赤ちゃんを預かる。対象となるのは親が病気となってしまう場合、介護の必要がある場合、障害児の兄弟(きょうだい児)を預かることもある。また、母親が育てにくさを感じて子を一時的に預けることもある。子育てのしづらさを抱えていた母親について、障害が原因でそのような状況になっていた事例もある。支援を繋げるには時間がかかることだと思う。
- ・地区の中で自身は協力をお願いする一方になってしまっているが、地域で人と人を繋げることを継続している。特に、子どもとお年寄りは見守らないといけないので、迷ったとき・迷子になったときように名札を配布し、連絡は地域ケアプラザに繋がるようしている。相談先が分からないときのために個人の携帯電話番号を教えている。
- ・昨年、防災パークが開催されて、イベントを通して日頃から若い人の力を借りられたら良いと思った。自治会としては、3 月に防災訓練を実施する。若い人にも参加してもらうため、ごみ拾いやカレー作りも企画している。
- ・老人クラブの活動は、健康・友愛・奉仕に基づいている。コロナは 5 類となったが、活動は以前のように戻っていない。気にかけてもらう＝友愛は日中 1 人で過ごしている人を会員同士で見守るものである。これは大事なことであり、先ほどの動画を見てフードドライブの活動にも力を入れていきたい。町内に関しては、期限が近付いてきて町内会員に渡している備蓄食をフードドライブに回して、有効利用するよう提案したい。
- ・各連合によって環境は違うためなのか、地域の方から自主的に困っているという申告をしてくる方は少ないように思う。フードドライブの動画の内容に関連するが、各商店の期限間際の売れ残り商品の回収を地域ケアプラザでできたら良いと思う。また、区役所の方と訪問して、個人の安否を確認する取組を行いたいと考えている。
- ・前回の推進委員会で防災訓練に参加したいと述べたが、実際に参加してきた。災害時は一人のことが多いと思うので、一人で参加した。会場は駒岡小だったので民生委員の方に誘導を依頼し、肩を貸してもらい、世間話をしながら約 1 キロを歩いた。関わった方からは、ふれ合ってみなければ分からない、実際に行ってみないと分からなかったという声を受けた。各地区の障害のある方にも参加してほしいので、地域も障害のある方が参加することを身構えないで頂きたい。日頃皆が体験できることは、障害の有無を関係なくした方が良い。
- ・推進フォーラム当日冊子 P4 7 に鶴見区ボランティア分科会 3 6 団体の情報が掲載されている。コロナ禍によって配食ボランティアをやめる団体もあったが、それでもめげずに世代交代しながら続けているところもある。あいねっと推進フォーラムのボランティアコ

一ナーパネル展示では、自分の活動を知ってほしいという思いが込められている。今年は部屋の中ではなくロビーで開催するので、ぜひ皆さんにも見に来ていただきたい。

防災備蓄食品で期限が近いものがあつたので町内の方に配ったところ、生活に困っている様子は伺えなかったが喜ばれた。どういう人がどういう形でもらいたいのか分からないこともあるが、区社協のボランティア分科会では共有される。各団体自分の団体を軸として人の役に立とうとするのが良い。

- ・精神障害は心の病気であり、様々な差別的表現がある通り、当事者家族は大変思いをしている。解決のためには家族がサポートを頑張るだけではなく、医療の協力も欠かせない。フードドライブやボランティアは善意による活動であり、それらには金銭的・時間的にも限界がある。根本的な問題は行政の方に解決してもらふ必要もあるので、今後も働きかけていく。
- ・SOSを出せる人、出せない人がおり、出せない人にどう気づくかが課題である。人によって支援が必要な時は違うので、誰にとってどのような支援が必要か考えながら携わっていかねばならないと思っている。地域の情報を地域ケアプラザに持ってきてもらったとき、いかに返すかが大事。地域ケアプラザの職員は地域に日常在住していないので、町の住人の皆さんの善意があつてこそ運営ができています。皆でつながりを作っていけると良い。

【八森副委員長からグループワークの講評】

コロナ禍で今までやってきたことができなくなったが、今までやってきた既存の活動を再開するため、新たな形で取り組んでいく人もいます。そこに若い世代を巻き込んでいくという話も多く出ていたと思う。

さまざまなニーズ・困りごとがあつてもSOSを出せない人がいるが、それは日頃の付き合い、住民の関わりの中で気が付いていくものであり、ニーズを拾ったら地域ケアプラザや町内会等つなぐことができる関係機関に共有し、深い本質に迫ることによって、必要な支援が見えて、支援を必要とする人が見えてくる。

日頃から色々な対象者の方とふれ合うことで、分かることもたくさんあるので、そのような機会、イベントも大事である。防災やお祭りをきっかけにしながら、ふれ合いの場を作っていくのが重要ではないかという話もあつた。関係構築には時間がかかるので、日頃の付き合いや一つひとつの相談を大事にしながら、時間をかけて接していくことも必要という話があつた。

以上のことを、次の計画に反映させていけると良いと思う。

(4)その他

- ・横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた鶴見区アクションプランについて資料を基に令和5年12月末までの実績を説明。

鶴見区アクションプラン…住み慣れた地域で安心して暮らすためのケアシステムであり、区役所、区社協、地域ケアプラザが支援をしている。

→質問や意見は特になし。

4 閉会

(山崎委員長)本日は熱心なご討議ありがとうございました。八森先生、司会進行ありがとうございました。